

月刊 書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 79～

令和2年（2020年）



目次

- ◇教場・教室も再開へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ◇書文協多摩支部・多摩教室を開設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ◇第9回全国書写書道総合大会・実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- ◇同総合大会・課題一覧と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

一般社団法人日本書字文化協会(書文協)

本部 〒164-0001 東京都中野区中野 2-11-6 丸由ビル 3階

電話 03-6304-8212 / FAX 03-6304-8213

メール info@syobunkyo.org

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

附属書写書道専修学院

本部中野教室 本部に同

青梅教室 〒198-0036 青梅市河辺町 10-10-3 サンライズイトウ 301

全国の警戒宣言解除 学校再開が現実的に 警戒しつつ教場活動も再開へ

政府は5月25日、警戒宣言が最後まで発令されていた首都圏と北海道の宣言を解除しました。これを受けて5都道県は経済活動、学校再開のスケジュールを検討、時差通学など“3密”防止対応を取りながら授業の開始方針を打ち出しました。5月14日に解除された九州地区、21日に解除が決まった大阪圏などでも学校活動が活発化し始めています。東京では6月2日、感染予防のより徹底を求める「東京アラート」が出されるなど、警戒すべき状況は残っていますが、活動自粛解除への方向は変わっていません。

こうした状況を踏まえて、書文協が全国の教場・教室の現況と見通しを調べたところ、書写書道の学びは、ほとんどの地で開始できることが明らかとなりました。この結果、6月1日以降、正常化に向かう見通しで先に発表した「書文協、今後の方針」（月刊書字文化5月号に掲載）は修正なく実施していくこととしました。ただし、平常化への道筋は、地域の実情によって異なります。各団体ともご遠慮なく書文協に問合せ・相談の連絡をお寄せください。

5月号掲載の「今後の基本方針・スケジュール」等

- ① 検定・ライセンス試験、検定事前添削指導、特別段級認定試験などは通常通り実施
 - ② 本部・各地講習会は基本的に当面開催しません。地域の実情により開催する場合があります。
 - ③ 今後もオンラインを活用します。作品写メールと電話指導を組み合わせによるもので、動画方式のシステムは使いません。
 - ④ 第9回全国書写書道総合大会は月刊書字文化6月号（本号）掲載の総合大会実施要項を参照。
 - ⑤ 上記総合大会の中央審査会は11月第2週（8—14日）の間で調整します。
 - ⑥ 優秀作品展示・表彰・交流会 12月6日（日） 於：東京
 - ⑦ 書文協創立10周年記念会 12月6日（日） 於：同所
- *詳細につきましては月刊書字文化10月号（9月末ごろ刊行）で発表

ホームページのチェックを

書文協ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

書文協多摩支部開設のお知らせ

一般社団法人日本書字文化協会（大平恵理会長、本部・東京都中野区）は、7月1日より、多摩支部（支部長、渡邊啓子・副会長）を東京都羽村市の JR 青梅線羽村駅近くに開設いたします。同支部は、書文協本部と連動して活動、特に全国を対象とした“電話面談指導”の拠点と致します。

“オンライン指導”の東京多摩の拠点に

書文協本部講師陣が生徒に直接電話を入れ、作品の写メールを基に指導する“電話面談指導”方法は、コロナ禍の対処する方法として取り入れ、大きな成果をあげました。究極の個別指導であり、距離と時間の制約をクリアするバリアフリーの指導だからです。

コロナ禍で急遽採用された方法であり、設備などで利用者の皆様には大変なご協力をいただきました。お礼申し上げます。今後より改良を加えてオンライン授業として有効に活用していく方針です。

書文協加盟の教場・教室から離れた地域に住む人たちにも開放し、専修学院の一員として指導して参ります。また、態勢が整い次第、多摩地区公共施設などを利用してのスクーリングも実施したいと計画しています。



青梅教室は発展解消し多摩支部教室に吸収

以上のことから、専修学院青梅教室（青梅市河辺）は羽村市の多摩支部内に置く専修学院多摩教室に吸収いたします。幼児からシニアまで、多摩各地の方が対面指導に見えることとなります。

多摩支部・教室への連絡は当面、書文協本部を通じて行います。電話・Eメールのアドレスは、当機関誌1ページ下にありますので、ご利用ください。

中野本部教室は6/5（金）から対面指導開始

書写書道専修学院中野本部教室は、6月5日から教室による対面指導を開始しました。多摩支部開設により事務スペースを狭め、教室スペースを拡充しました。そのうえで”電話面談指導”も取り入れ、新たな時間割りを作成して各生徒の登録を進めているところです。

第9回総合大会指定課題一覧

課題・応募数



総合大会は「ひらがな・かきかたコンクール」「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」とも課題は指定されます。学生展には席書と公募の部がありますが、両部とも共通の指定課題です。

応募数は1人1点ですが、学生展公募の部では、同じ課題でも用紙の大きさ（半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙）が違えば1人3点まで応募できます。地域指定用紙とは、都道府県の大会などで独自に使用が求められている八ツ切のことです。この地域指定用紙での八ツ切出品も可能です。硬筆コンクールでは書体が違えば中学生は2点、高校生以上は3点応募できます。（その他実施要項ご参照）

<仮名遣い>

句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

ひらがな難易度表、評価の観点表を大事に

今回は特に語句的な共通テーマは設けませんが、留意したいこととして「ひらがな難易度表」、「評価の観点表」に注目することを大事な目的にしましたこの2つの表は、書文協が考案した自慢のものです。

ひらがなは、漢字の草書体を字源として日本が生み出した文字で、漢字かな交じりの日本語の6割以上を占めている、と言われます。その書き方の難しさはそれぞれに違います。ひらがなを順次覚えていくチャートとして作られたのが「ひらがな難易度表」です。

「評価の観点表」は、止め・はね・払いなど、覚えて欲しい書写書道のルールを50の項目にまとめたものです。検定やコンクールで出されてきた作品を、この評価の観点に照らして審査します。この指定課題の評価の観点はどこか、は公開されます。ともすれば書写書道作品の審査過程は明らかにされないブラックボックスとされてきました。単に「上手い、下手」の漠然とした評価でなく、評価されたポイントを知ることによって書写書道は学びの道筋を得ます。

課題の言葉をきっかけに、教室で先生と生徒さんの間で語り合われることを期待します。この解説は主に指導者を対象に書かれています。課題の解説は一覧の末尾に記しました。参考にしてください。

用紙・表記上の注意

- (イ) 硬筆は書文協製作の「硬筆共通清書用紙」（検定、大会共通）で出品してください。共通清書用紙は学年ごとに①（5字1行、年長以下）、②（6字3行、小1・2）、③（7字5行、小3・4）、④（罫線5行、小5・6）、⑤（罫線6行、中学）⑥（白地、高校以上）の6種類があります。1枚12円（100枚以上注文は15%引き）。書文協本部にお求めください。
- (ロ) 漢字は学習指導要領の学年別漢字配当に従っています。ただ、総合大会は年度前半大会であることから前学年までの漢字使用を原則とします。ごく一部、当該学年配当の漢字が使われています。
- (ハ) 漢字・仮名遣い、句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

参考手本、評価の観点はホームページで発表

今大会は例年より締め切りが遅くなっています。これに従い、参考手本は、3コンクールとも6月中旬にホームページにて発表されます。評価の観点も7月下旬までにホームページ上で発表されます。

手本通りに書かなくてはいけないということではありません。流派を超えた審査が書文協の理念です。止め、はね、払いや点画など、身に付けなくてはいけないルール、技術をしっかりと手本から読み取ってください。指定された大きさの用紙に書く際の文字の配置、配列も手本を参考にしてください。技法、ルールのポイントを指定課題文言にそってまとめた「評価の観点」も参考にしてください。

書文協ホームページに掲載された手本をダウンロードして使用するのは自由です。手本は発売もされます。

印刷手本の販売も※金額は税抜き価格

参考手本（毛筆はA3判、硬筆は共通清書用紙による原寸大）は希望者に発売します。手本は1枚当たり毛筆97円、硬筆は37円。幼稚園・保育園・学校単位での応募は、応募者1人手本と清書用紙2枚を無料とします。送料はご負担ください。

— ここに注意 —

ひらがな難易度表

ひらがな難易度順一覧

レベル										
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	こ	り	つ	し	く	へ	い	と	て	ろ
B	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	う	そ	に	ち	ら	の	さ	け	た	せ
	21	22	23	24	25	26				
	よ	や	ん	ひ	お	え				
C	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	す	る	か	き	み	は	も	ま	ふ	ゆ
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	め	わ	ほ	れ	ね	な	を	ぬ	あ	む

ひらがなを順序良く学ぼう

ひらがなは漢字を音だけで使った万葉仮名からできました。対象の漢字を極端に草書化したもので、日本で生まれた文字・ひらがなの字源は草書体の漢字なのです。

現代では46文字が使われています。これらについて、書き易さをいくつかの点から数値化して順に並べたものが「ひらがな難易度表」です。主なポイントは①何筆で書くか②折れ、折り返し、曲り、そり、接し方、交わり方などがどの程度か③書く人の感覚、などです。これらを数値化して順位を付けました。

この結果、一番易しいのは「こ」、最も易しくないのは「む」となります。

筆数は2筆でも、幼児がジグザグの線の練習から直ぐかけてしまうのが「こ」、難しい曲りや交わりのある「む」はまことに書き難いわけなのです。難易度表に従って学んでいくことが大切です。

評価の観点表

認定級位		年 月 課題 番	評価の観点 (番号と内容)	合格 チェック																															
10級 (はじめてのえんぴつNo.1~4)	9級 (はじめてのえんぴつNo.5~6)																																		
8級 (はじめてのえんぴつNo.7~10)		書 写 書 道 硬 筆 課 題 検 定 (新 硬 筆 検 定)	課題合格《印》																																
7級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 1 課題No.1~8)																																			
6級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 2 課題No.9~16)																																			
5級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 3 課題No.17~24)																																			
4級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 4 課題No.25~32)																																			
3級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 5 課題No.33~40)																																			
2級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 6 課題No.41~44)																																			
1級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 6 課題No.45~48)																																			
30	29				28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			
3つの部分の組み立て方					配置・配列	用紙と文字の大きさ	点画のつながり	書く速さ	筆順と字形	漢字と仮名の大きさ	筆圧	組み立て方	句読点・かぎ	画と画の間・等間隔など	中心	外形	濁点・半濁点及び拗音・促音の小さな文字	そり	点	縦画・縦線	横画・横線	筆順	交わり方	接し方	曲がり	折り返し	折れ	あき・広い・狭いなど	方向	長さ	はねる	払う	止める		
一般社団法人日本書字文化協会																																			

確かな学びを続けるために

上記の「評価の観点」表は、書写書道を学ぶ上で覚えておきたい基本的なルールを 50 項目にまとめたものです。掲載した表は前半の 30 項目です。ルールには、止め・はね・はらい、長さ、方向、あき、配置・配列などがあります。作品の審査は、これらの観点に沿って行われているのですが、審査過程は公開されないのが普通で、書写書道の審査は「ブラックボックス」（暗室）の中と言われがちです。評価の観点は、この暗室の中が可視化できるように書文協が決めたものです。

コンクールでは、その課題文のどこに注意して書けばよいか、逆に言えば、どこが審査のポイントなのか、評価の観点が書文協ホームページで公表されます。新硬筆検定では、評価の観点表にチェックを入れて、ワンポイント添削された検定受験作品とともに返却されます。評価の観点が一定水準に達してないと、検定は不合格となります。確かな足取りで学び続けるために「評価の観点」は不可欠です。

課題集

◆大会課題は、先に発表した「ひらがな・かきかたコンクール」を除き過去の大会の好評だった課題から選抜しました。学校授業が変則であるなど、大会練習時間の確保が大変だと思いますが、書塾の指導をできる限り受けるなどして大会にチャレンジしてください。指導の先生方も以前に手掛けられた課題ばかりなので、余裕をもってご指導ください。

<ひらがな・かきかたコンクール>

年少・年中	こい
年 長	つくし
小 1	とりのこえ
小 2	きれいなはなをみる。
小 3	よるのそらに、まんげつがあかるい。

□ 清書用紙は、年少・年中・年長は用紙①、小1、小2年生は用紙②、小3は用紙③

<全国学生書写書道展>

年少・年中	く
年 長	つる
小 1	いろり
小 2	ふみきる
小 3	米づくり
小 4	生け花
小 5	里山の秋
小 6	育む友情
中 1	春夏秋冬
中 2	中央突破
中 3	百代の過客
高校・漢字	山青花欲然
高校・仮名	まり投げて 見たき広場や 春の草
大学・漢字	花間宿鳥振朝露 柳外帰牛帯夕陽
大学・仮名	秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ

□ 席書は中学生までは八ツ切、高校以上は半切

□ 公募は半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙

◆ 書体：幼・小学生＝楷書、中学＝楷書・行書、高校・大学＝自由

<硬筆コンクール>

- 年少・中 さくら
- 年 長 もちつき
- 小 1 おはぎをたくさんたべました。
- 小 2 だいこくさまにたすけられた白うさぎ
- 小 3 おうえん合せんを声がかれるまでしました。
- 小 4 うちあぐる ボールは高く 雲に入りて
また落ち来る 人の手の中に
- 小 5 日本は手書き文字を大事にします。
文字で正しく、分かりやすく伝える書写、
文字の形に注目した書道。共に大切です。
- 小 6 小諸なる 古城のほとり 雲白く 遊子悲しむ
緑なす はこべはもえず 若草も しくによしなし
- 中学生 勉強と部活の両立が難しい。そこに書写書道の学びをどう入れるか。
悩んだ末に私が出した結論は、全力を尽くして、結果を受け入れる。
それが成長につながる。
- 高校生以上 いづれの御時にか、女御更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際には
あらぬが、優れて時めきたまふありけり。源氏物語「桐壺」より
- 清書用紙は、年少・中、年長は用紙①、小1,小2年は用紙②、小3,小4年は用紙③、
小5,小6年は用紙④、中学は用紙⑤、高校以上は用紙⑥
- ◆ 書体：幼・小学生＝楷書、中学生＝楷書・行書で2点まで出品可。
高校生以上＝楷書・行書・草書で3点まで出品可。

課題解説

<学生書写書道展>

- ◆中2
中央突破は、闘い方の一つ。敵陣の真ん中を突き破る
- ◆中3
百代の過客は、盛唐の杜甫と並び称せられる同時代の詩人・李白の「それ天地は万物の逆旅にして光陰は百代の過客（かかく）なり」という句による
- ◆高校・漢字

山青花欲然

唐代の詩人。杜甫（とほ）の「絶句」の一節です。

全文の和訳は「江（こう）碧（みどり）にして 鳥（とり）逾（いよいよ）よ白く
山（やま）青（あお）くして 花（はな）然（も）えんと欲（ほつ）す 今春
（こんしゅん） 看（みすみす）又（また）過（す）ぐ 何（いず）れの日か
是（こ）れ帰る年（とし）ならん」。咲き誇る花も、故郷を思う目には寂しく
映ったのでしょうか。

◆高校・仮名

まり投げて 見たき広場や 春の草

明治の俳人・歌人、正岡子規（全国硬筆コンクールの小4参照）の作。
子規は野球を愛し、句も多い。夏草や ベースボールの人遠し

◆大学・漢字

花間宿鳥振朝露 柳外帰牛帯夕陽

夏目漱石の漢詩です。花間の宿鳥 朝露を振るい 柳外の帰牛 夕陽を帯ぶ
昨夜から花かげに宿っていた鳥が、朝露をふるい落として飛び立つ。柳の向こ
うを夕日を背に受けた牛が帰っていく。のどかな農村の朝夕。日本の原風景です

◆大学・仮名

秋の田の かりほの庵の 苔をあらみ わが衣手は 露にぬれつ

百人一首の一番歌。詠み手は天智天皇 苔（とま）をあらみ＝苔（むしろ）の網目
があらいで

<全国硬筆コンクール>

◆小4

うちあぐる ボールは高く 雲に入りて また落ち来る 人の手の中に

正岡子規（学生展の高校・仮名参照）は野球を愛した。課題の情景、感覚はよく分かる。
「歌よみに与ふる書」などで短歌革新に努めた。創刊した俳句雑誌「ホトトギス」は有名。

◆小6

小諸なる 古城のほとり 雲白く遊子悲しむ 緑なす はこべはもえず
若草も しくによしなし

明治から昭和前期まで活躍した詩人、島崎藤村の「千曲川旅情の歌」の冒頭の一節。フ
ァンは多い。「5・7、5・7・・・」の5・7調は、日本を代表する韻律（いんりつ、言葉の
調子）。小諸城は長野県小諸市にある。「遊子」は、旅人の意味。ここでは島崎藤村本人。
「はこべ」は、ナデシコ科ハコベ属の植物。「淡雪」とは、春先のうっすらと積もって消
えやすい雪のこと。

◆高校以上

源氏物語「桐壺」の冒頭です。口語訳は以下の通り

どの天皇の時代であつたでしょうか、女御や更衣がたくさん（天皇に）
お仕え申し上げていらっしやつた中に、それほど高貴な身分ではない方で、
際だって帝のご寵愛を受けていらっしやる方がいました。

第9回全国書写書道総合大会実施要項

1、構成

- 2020年度ひらがな・かきかたコンクール（公募展）
- 2020年度全国学生書写書道展（席書の部、公募の部）
- 2020年度全国硬筆コンクール（公募展）



2、目的

学習指導要領に準拠して毛筆、硬筆のバランスの取れた書写書道の普及を目指します。三つの大会を一括実施することによって、書写書道の広がりを実感してもらいます。

3、主催 一般社団法人日本書字文化協会

共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構

4、後援（予定）

文部科学省 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会
全日本書写書道教育研究会

5、大会役員（敬称略）

大会会長 大平恵理（日本書字文化協会代表理事、会長）
大会副会長 肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
大会顧問 鈴木勲（公益社団法人日本弘道会会長、元文化庁長官）
野口芳宏（植草学園大学名誉教授）
大会運営委員長 渡邊啓子（日本書字文化協会副会長）

<中央審査委員会>

顧問 小森茂・蓮池守一
委員長 加藤祐司
副委員長 辻眞智子
委員 青山浩之・加藤泰弘・柴田五郎・豊口和士・長野秀章
西村佐三・宮澤正明

6、応募・参加申し込み締め切り

ひら・かきコンクール出品	2020年9月18日（金）必着
学生展席書の部参加申し込み	席書開催日の14日前まで
	開催期間は「13、開催期間」を参照
学生展公募の部・硬筆コン出品	2020年10月23日（金）必着

7、賞（申請予定含みます）

個別コンクール賞

特別賞＝文部科学大臣賞、名誉大賞（前回、大臣賞で今回大臣賞候補作品）、大賞（大臣賞に匹敵する作品）、審査委員会賞、書文協会賞、推進機構理事長賞、小・中・高校長会賞、全書研会長賞、各主催・後援団体の賞、教育特別奨励賞

準特別賞＝優秀特選ベスト10

本賞＝特選、金賞、銀賞、銅賞

総合の部（ひらがな・かきかたコンクールを除く）

書字文化賞（グランプリは文部科学大臣賞）

全国硬筆コン＝硬筆・学生展＝毛筆ともに優秀な作品の提出者若干名

8、優秀作品発表（ホームページ等）、学校・地教委への顕彰依頼

- ◆ホームページ上での上位優秀賞受賞者氏名・作品ネット展示は、10月下旬にアップ
- ◆在籍園・学校及び地元自治体に表彰依頼。
- ◆12月6日、従来型の表彰式に替えて「優秀作品展示・交流会」を開催予定。
- ◆団体宛て全審査結果通知

賞状・賞品と同時に審査結果通知書を送ります。作品の記念アルバム、表装の申し込みについても同時に送ります。

ひら・かきコンクールは2段階発表

本賞は10月末発送開始、特別賞・準特別賞は12月初旬

学生展・硬筆コンクール 12月初旬発送

9、出品料・参加費（1点当たり、消費税10%込み）、作品規定

*出品料は前回と同様ですが、消費税込みの額が増えました。

*席書の部同様に公募の部も課題は指定課題のみで自由課題はありません。

個別コンクール名称	参加資格	部門	点数	席書参加費、及び公募出品料		用紙 (縦長使用)	署名
				団体	個人		
ひらがな・かきかたコンクール	年少～小3	公募	1点	年少～小3	550円	1650円	【幼児】 氏名。名前だけでもよい。 【小学生～中学生】 学年・氏名。学年は(例)小四、中二としてください。
全国硬筆コンクール	年少～一般	公募	書体が違えば中学生は2点まで。高校生以上は3点まで。小学生以下は1点	年少～中学生	550円	1,650円	
				高校生以上	880円		
全国学生書写書道展	年少～大学	席書	1点	年少～中学生	880円	1,870円	八ツ切
				高校生 大学生	1,100円		半切
		公募	用紙が違えば3点まで	年少～中学生	660円	1,650円	① 半紙 ② 八ツ切 ③ 半切 ④ 地域指定用紙
				高校生 大学生	880円		
						【高校・大学・一般(硬筆コンのみ)】作品に応じて署名。落款印のみは不可。	

※団体応募は、複数人数で出品(参加)する指導者がいる場合を言います。結果連絡、賞状・賞品伝達等は指導者を通じて行います。出品・人数は、総合大会全体の合計数です。

※小数応募の加算金：団体が応募する場合、出品料の支払い合計が3,000円に満たない場合は、1,000円をプラスしてください。例えば、ひら・かきコン4点2,200円、硬筆コン中学以下1点550円、合計2,750円の場合、総額は+1,000円で3,750円となります。手数料、送料を補うもので、一般的にとられている方法です。

※筆記具

硬筆コンクールの筆記具は、鉛筆やペンなど硬筆に限り、筆ペンは使用できません。鉛筆は2Bを推奨します。学年等に応じて硬さを選んでください。中学生以上はなるべくペンを使用してください。

10、課題 課題は指定課題のみで自由課題はありません。

いずれも指定課題。学生展公募の部は、用紙の大きさが違えば3点まで応募できません。

11、参考手本発表・評価の観点発表予定

参考手本は6月中旬、ホームページで発表（ダウンロードして使用可）。評価の観点は7月下旬ホームページで発表。

12、印刷手本、応募用紙発売 ※金額は税抜き価格

印刷手本は5月上旬より発売。毛筆はA3判1枚97円、硬筆はB5判原寸大1枚37円。硬筆は共通清書用紙使用1枚12円（100枚以上は15%引き）。送料は希望者負担。申し込み用紙（ホームページの各種用紙ダウンロード欄から）を使用し、書文協本部に申し込んでください。

13、席書大会開催期間

2020年9月19日（土）～10月18日（日）

*地域により、夏休みが短縮される場合があります。その際は改めて発表します。

14、席書ルールと地区大会開催費

席書ルール

<学生展>制限時間は25分。書文協の朱印が押された用紙2枚に、手本を見ずに書き、自分の判断で良い方を提出します。

審査

席書は全国各地で決勝分散地区大会を開催、全作品を書文協本部に集めて、中央審査委員による中央審査会で審査されます。

地区責任者は中央審査会専門委員として任命されます。中央審査会（2020年10月下旬を予定）については別途ご連絡します。地区大会会場は、書文協に開催申請を出していただき、書文協が承認した場合に席書決勝地区大会として開催できます。

地区大会開催費補助

席書普及のため改革を進めています。開催費補助につきましては対象団体に連絡します。

15、出品に当たり

書文協では全国書字検定試験、ライセンス試験、全国書写書道大会、講習会等における**事前参加登録制**を実施しています。

まず「団体参加（予定）申込書」にて必要書類をお求め下さい。

参加予定者には個人別参加予定申込書を提出することで出品券が発行されます。応募の際は、応募総括用紙、応募明細用紙を作品（必ず出品券を貼付）に必ず添えてください。出品券の貼付は、硬筆は作品の所定欄、毛筆は出品票の所定欄となります。

16、手続き書類のダウンロード

手続き書類には<団体参加（予定）申込書><個人別事前参加登録用紙><応募総括用紙><応募明細用紙><出品票>があり、説明文書として<事前参加登録制について>がそれぞれ書文協ホームページに6月中旬アップ予定です。

書文協ホームページのフロントページにある横メニューバーの右から2つ目の「大会」にカーソルを当てると、各項目がプルダウンされます。その中の伝統文化大会をクリックし、大会実施要項の最後に必要用紙のダウンロードコーナーがあります。現物をご希望の方は書文協本部に請求してください。

17、割引 ー団体審査割引、会員割引ー

出品・参加は誰でもできますが、書文協会員の場合は会員割引があります。これは、出品における事務作業等の費用として行われるものです。書文協会員規則により、個人会員、団体会員Aは5%、団体会員Bは10%、団体会員Cは15%が割引かれます。会員制度の詳細はお問い合わせください。団体審査（一審）を行った場合は出品料から5%引かれます。

18、園・学校特典

幼稚園・保育園、学校については出品・参加によって学校会員と認定され10%割引かれます。また、参加児童生徒1人につき手本と硬筆共通清書用紙2枚は無料です。送料はご負担ください。

19、審査

書文協本部審査会が全ての参加作品に目を通し、参加点数の約1%を最終審査補に選び中央審査委員会が厳正に審査します。第1審に当たる応募時の団体審査結果は基本的に尊重されますが、本部審査会の判定とかけ離れる場合は、本部が当該教室指導者と協議の上、決定します。審査は文部科学省の学習指導要領に準拠して行われます。教育漢字について総合大会の指定課題では前学年配当の漢字までを使用します。仮名遣い、句読点など原文と異なる場合があります。

20、賞状印字

全ての出品者に賞状が授与され、希望に応じ賞状の受賞者氏名を印字することもできます。1人30円（税別）を添えてお申込み下さい。氏名は出品券と同一になるため、個人別事前参加登録用紙を正確に記入してください。書体はご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おきください。

21、表装、記念アルバム受付

書文協では書写書道作品の作品（展示）化を奨励しています。毛筆でも硬筆でも、人に鑑賞してもらうことが書の楽しみの一つとなります。また、展示作品化して残すことは、書の学びの軌跡となり、継続する力の原動力となるでしょう。

応募作品は原則として書文協に帰属しますが、ご注文いただくことで記念アルバム（本人の作品・写真、賞状のレプリカを配した特製）をお送りします。複数の作品化希望の場合は、2冊目からは複写作品となります。掛軸には紙表装と本表装があります。価格、申込締め切り日などは、結果発表の際にお知らせします。

22、大会事務局（作品・出品料送付、連絡先）

一般社団法人日本書字文化協会本部 事務局

〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6 丸由ビル3階

電話 03-6304-8212（平日10:00-17:00） FAX 03-6304-8213

Email info@syobunkyo.org ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

<振込先> ゆうちょ銀行

=振込用紙にてお振込みの場合=

記号 00130-1-728113 名義 一般社団法人日本書字文化協会

=上記以外からお振込みの場合=

店番 019 口座番号 当座 0728113 口座名義 一般社団法人日本書字文化協会

対面授業は 6/5（金）から

電話面談指導も併用

全国の警戒宣言が解除され、学校が再開されるとともに、書塾の活動も活発化します。書文協は、附属専修学院の活動を次のようにします。

- ① これまで自粛していましたが対面授業を6月5日から再開します。ただし、当面、学校が午前、午後授業に分かれることを配慮し、必ずしも対面指導に限ることなく、電話面談指導を発展的に継続します。特に青梅教室においては書文協多摩支部内に置く専修学院多摩教室に吸収、オンラインを活用し継続して指導を行ってまいります。
- ② 対面授業は、3密を避けるため、中野教室においては、教室を拡張しました。一人ひとりの座席を離し、通路を2つに分けて行動、玄関で靴を脱いでからは土足を廃止しました。また、毛筆指導では、墨液、文鎮は持ってこないで良いようにし、準備・収めの時間を少なくし、実質時間を増やします。青梅教室においては、多摩教室として発展継続させ、スクーリングとしての充実を図ってまいります。
電話による指導“電話面談”が究極の個別指導として好評で、効果も上げています。今後とも対面授業と電話面談指導を併用します。
- ③ 年間カリキュラムを36コマ授業とします。内訳は月間では平均3時間で対面指導2時間、電話面談指導1時間です。カリキュラムについては毎月の予定表に従って下さい。
- ④ 日曜クラスにおいては、会場を平日指導と同様、丸由ビル301号室で行います。原則第2と第3日曜日に固定し、登録していただきます。これにより月1回日曜日の週が変動しやすかったものが、安定して実施できるようにいたしました。

		(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	第2(日)	第3(日)
I	10:00～ 11:00			水-I		金-I		日2-I ①9:50～ 10:50	日3-I ①9:50～ 10:50
II	11:20～ 12:20			水-II		金-II		②11:00～ 12:00	②11:00～ 12:00
III	13:20～ 14:20						土-III	③12:10～ 13:10	③12:10～ 13:10
IV	14:40～ 15:40		火-IV	水-IV		金-IV	土-IV	日2-II ①13:40～ 14:40	日3-II ①13:40～ 14:40
V	16:00～ 17:00		火-V	水-V		金-V	土-V	②14:50～ 15:50	②14:50～ 15:50
VI	17:20～ 18:20		火-VI	水-VI		金-VI	土-VI	③16:00～ 17:00	③16:00～ 17:00
VII	18:40～ 19:40		火-VII				土-VII		